

第42巻 第1号 予告

特集「エイズ対策（仮題）」

エイズのウイルス学	牛島廣治（国立公衆衛生院）
エイズの臨床	窪山 泉（東京都小金井保健所）
エイズの疫学	藪輪真澄（国立公衆衛生院）
東京都のエイズ対策	稲垣智一（東京都衛生局）
保健所におけるエイズ対策	中瀬克己（神戸市灘保健所）
これからの感染症対策	母里啓子（国立公衆衛生院）

第42巻 第2号：特集「食品の安全性」

編集後記

地方自治体において試験・研究者を多数かかえている「いわゆる衛生研究所」は、「地域における保健・環境状態全般にわたる継続的の把握をすることにより、国や自治体による公衆衛生行政諸施策の科学的裏付けができる自治体独自の機関」と位置づけても過言ではありません。

一般に社会で公衆衛生上の問題が声高に叫ばれるときは、心身ともに健康な生活をおくりにくい状態であるが、公衆衛生従事者間でより前進しようと問題提起や意識の高揚・変革を模索し合い努力することは貴重であり、むしろ常に必要なことであると考えます。

現在は、がん・エイズや廃棄物の問題、特に高齢者の生活の質の問題、などが社会の注目を浴びている。また、保健所の変革が実施されれば、そこと業務上の交絡のある衛生研究所が影響を受けることは必定である。人材の確保・補充が難しいことから、自治体内でのやむを得ない他の機関への人事移動等、社会的要請の変化・多様化は公衆衛生各分野の構成・役割を大きく変えてきています。

このような時期に、衛生研究所の現職員や勤務経験をもつ先生方に、衛生研究所が直面している問題点や将来への展望・希望等を述べていただいたことは、今後への話題提供として有意義であったと考えます。

また、国立公衆衛生院において行われている、衛生研究所等の技術者へより高度な教育を提供するための基礎研究についても紹介させて頂きました。

（植田 昌宏）